

玉出中学校だより

令和8年9月17日
大阪市立玉出中学校
令和8(2026)年度第4号

言葉の大切さ

2学期に入って、早速(さっそく)文化発表会に向けた取り組みが始まっています。音楽室や教室からみんなの合唱が聞こえてくると、クラスや学年の熱量が伝わってきます。どんな合唱に仕上がるか、今から本番が楽しみです。合唱はクラスの仲間の気持ちがまとまってくると、格段に素晴らしい歌声になります。お互いが信頼し合えるような関係になれるよう頑張ってください。

そのためにも、日常使っている言葉を見直してみましょう。言葉には力があります。その力は、誰かを救ったり、元気づけたりできるすごいものですが、間違って使うと、誰かを深く傷つけることもあります。中学生は大人への成長の途中段階です。勉強も大切ですが、人間として信頼のできる大人になっていくためにも、言葉の使い方を学んでいってください。学びとは失敗を振り返ることから始まります。過去の言動を振り返って、同じ失敗を繰り返さないよう、相手の気持ちを想像できる自分になってください。そうすれば、もっと仲間関係が深まっていくはずです。

戦後81年 父が守った位牌(いはい)

先日、NHKの方が学校に取材に来られました。玉出中学校が創立される前、太平洋戦争が激しくなった昭和20(1945)年、大阪が何度も大空襲に見舞われ、西成区の一体も焼け野原になってしまいました。現在、玉出中学校が建っている場所で亡くなった幼い子どもたちを葬(ほうむ)ったお医者さんの娘さんが、お父さんが大切にしていた位牌(いはい:亡くなった方のお名前を記録したもの)を、空襲で亡くなった方々のご遺族にお返ししたいという思いで、NHKに相談されたそうです。

全校集会でもお話しましたが、学校の正門の右手にある「永遠の生命」と刻まれた石が、そこで亡くなった幼い命を慰(なぐさ)めるものなのです。

戦争が終わって、この地に玉出中学校が建設され、74年が経過しようとしています。いま世界各地では、戦争・紛争が続いています。戦争で亡くなった人たちを思うと、絶対に戦争をしてはいけないという強い気持ちがわいてきます。戦争を経験した方々が少なくなると、戦争の恐ろしさや、無残さがわからなくなってしまえば、将来に何が起こるかわかりません。人の心の中に平和の砦(とりで)を築かなければなりません。

放送は今週土曜日の朝です。見ることのできる人はぜひ見て考えてください。



NHK ウイークエンド関西

2026年9月19日(土曜日) 午前7時30分～8時